

# 分析結果報告書〔5〕 1 / 2

## 1. 5 水質試料 (pH)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(か`卜`25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	( ) 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

### <分析結果>

回数	分析結果 (pH) 注1)
1回目	
2回目	
3回目	

注1) 共通試料1(模擬水質試料1)を用いて(希釈しないで)pHを測定した値を記入する。

(COD等他の項目は共通試料1を水で20倍希釈して調製した分析用試料を用いるが、pHは異なるので注意する)。

記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。

分析結果 (pH) は、有効数字3桁で記入する。

### <分析方法等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. ガラス電極法 2. その他 ( )
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ( )

### <pH計>

種類(使用目的による区分)	1. 携帯用 2. 卓上用 3. 定置用 4. その他 ( )	
形式(試験目的による区分)	1. O形(繰返し性±0.005) 2. I形(繰返し性±0.02) 3. II形(繰返し性±0.05) 4. III形(繰返し性±0.1) 5. その他 ( )	
検出部	メーカー、型式	メーカー ( ) 型式 ( )
	構造	1. ガラス電極・比較電極に温度補償用感度素子を含む 2. ガラス電極・比較電極(温度補償用感度素子を含まない) 3. その他 ( )
	検定	1. 検定済みであり、検定有効期間内である 2. 検定済みであるが、検定有効期間を超えている 3. 検定を受けていない 4. その他 ( )
増幅・指示部	メーカー、型式	メーカー ( ) 型式 ( )
	指示方式	1. アナログ式 2. デジタル式 3. 両方を用いるもの(アナログ式、デジタル式) 4. その他 ( )
	検定	1. 検定済みであり、検定有効期間内である 2. 検定済みであるが、検定有効期間を超えている 3. 検定を受けていない 4. その他 ( )

# 分析結果報告書〔5〕 2 / 2

<校正等>

ゼロ校正	標準液	種類 調製方法	1. 中性リン酸塩標準液 2. その他 ( )
	校正	標準液の温度 pH調節	1. 自作(調製したpH標準液) 2. 購入(pH標準液の第2種) 3. その他 ( ) ( )℃ 合わせたpHの値 ( )
スパン校正	標準液	種類 調製方法	1. シュウ酸塩標準液 2. フタル酸塩標準液 3. ほう酸塩標準液 4. 炭酸塩標準液 5. その他 ( )
	校正	標準液の温度 pH調節	1. 自作(調製したpH標準液) 2. 購入(pH標準液の第2種) 3. その他 ( ) ( )℃ 合わせたpHの値 ( )
ゼロ・スパン校正の繰り返し回数			( )回

<測定>

pH測定までの時間	注2)	試料に検出部を浸し、( )分後に測定を開始
pH測定終了までの時間	注2)	試料に検出部を浸し、( )分後に測定を終了
試料の温度 (pH測定時の水温)		( )℃

注2) 時間は分単位で概略値を記入する (例えば、約15秒後では0.25分間とする)。

<試料の保存状況>

保存状況	保存方法等	注3)	1. 冷蔵所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他 ( )
	保存時間		約( )時間
	保存温度		約( )℃

注3) 時間単位で記入する (例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--